

「教養特別講義2」に再編について

秋元健治

本学の独特の統一カリキュラムである教養特別講義は、教養特別講義1と教養特別講義2からなっています。創立者成瀬仁蔵は、本学の建学の精神を、女子を「人として、婦人(女性)として、国民として教育する」ということですが、教育理念として「信念徹底」、「自発創生」、「共同奉仕」の三綱領を述べています。教養特別講義は、それらの教えを礎に、教育内容に今日の時代性や社会性を繁栄させたものを目ざしています。

教養特別講義1は、創立記念式典、教特1講義、教特1セミナー、成瀬記念館の見学および12期に分かれた軽井沢セミナーを内容としています。

教養特別講義2は、2年次に「教養特別講義2-I」(講演テーマ1、2、3)を、3年次に「教養特別講義2-II」(講演テーマ4、5、6)を履修します。学内外のあらゆる分野で活躍する講師を招いて、九〇分間の講演を聞き、講演の後に三〇分間の質疑応答の時間ももうけています。

講演者は、学内外のあらゆる分野で活躍されている方々です。講演者の選出は、前年度の教養特別講義2委員会がおこない、交渉にあたります。教養特別講義2委員会には、各学科から選出された学生委員も参加しており、学生が講師として推薦する講師候補について検討がなされます。

「教養特別講義2」の内容については、2008年に後藤祥子前学長より新しい提言がありました。それは本学の建学の精神に、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばすという視点をより強調したものです。この提言は、教科に関係する委員会や教授会で検討がおこなわれ、2009年度より実施に移されました。

「教養特別講義2」の6つのテーマには、それぞれ「女性」が関連づけられました。すなわち、「1女性のこころとからだ」、「2現代文化のなかの女性」、「3女性と職業」、「4家族と女性の生き方」、「5女性と社会参加」、「6女性と世界」です。多様な分野で活躍されている講師の方は、これらのテーマのもと、それぞれの専門や具体的活動や経験にもとづき、自由に演題を決めて講演をしています。

また、こうした内容の刷新が、学生にどのように受け取られているのかを知るために、受講学生にたいするアンケート調査も2009年度からおこなわれています。その結果は、全体的には好意的に受け止められており、評価するとの回答が多数でした。同様のアンケート調査は、2010年度も継続しておこなわれ、その結果を再び、教養特別講義2の内容の検討材料にすることになります。

(あきもと けんじ 家政経済学部家政経済学科准教授)